

全 員 協 議 会 記 録

令和4年5月30日(月)

11時05分～13時52分

議場

〔出席議員〕

笹田議長、川神副議長

肥後議員、村木議員、大谷議員、三浦議員、沖田議員、足立議員、村武議員、川上議員、柳楽議員、串崎議員、小川議員、上野議員、布施議員、岡本議員、芦谷議員、永見議員、佐々木議員、田畑議員、西田議員、牛尾議員

〔執行部〕

市長、副市長、教育長、総務部長、健康福祉部長、市民生活部長、産業経済部長、都市建設部長、教育部長、消防長、上下水道部長

〔事務局〕 局長、次長、大下書記

議 題

1 執行部報告事項

- (1) 令和4年度浜田市総合防災訓練について (総務部)
 - (2) コロナ禍における「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」に伴う子育て世帯等臨時特別支援事業について (健康福祉部)
 - (3) 浜田市国民健康保険診療所の診療体制について (健康福祉部)
 - (4) 新型コロナウイルスワクチンの接種対応について (健康福祉部)
 - (5) 脱炭素化地域を目指して (市民生活部)
 - (6) 道の駅「ゆうひパーク浜田」の公設民営化に関する検討資料について (産業経済部)
 - (7) プレミアム付「はまだ応援チケット」の販売について (産業経済部)
 - (8) 浜田市都市計画マスタープランの策定について (都市建設部)
 - (9) 浜田市立小中学校統合再編計画(案)の進捗状況について (教育委員会)
 - (10) 令和5年度開園予定の統合幼稚園に関する基本方針について (教育委員会)
 - (11) 浜田市消防本部体制整備計画の策定について (消防本部)
 - (12) 水道メーターの未検針等について (上下水道部)
 - (13) 周布橋架け替えに伴う配水管の設置について (上下水道部)
 - (14) 浜田処理区下水道整備事業について (上下水道部)
 - (15) その他
- 2 行政視察レポートについて(議会改革推進特別委員会)
 - 3 地域協議会と議会との意見交換会の班編成等について
 - 4 主権者教育推進に係る取組について
 - 5 その他

以上

【詳細は会議録のとおり】

【会議録】

〔 11時 05分 開議 〕

笹田議長 | ただいまから令和4年5月30日の全員協議会を始める。

1 執行部報告事項

(1) 令和4年度浜田市総合防災訓練について

笹田議長
総務部長

総務部長。

訓練概要は資料にあるとおりだが、これまでの浜田市総合防災訓練は展示観覧型で実施してきたが、今回は参加型防災訓練の実施を計画している。また併せて浜田市災害本部の設置運用訓練も行い、市そのものの災害対応力向上を図りたい。

今回、市民には市が発表する避難情報の発令を受け、町内会または自主防災組織における情報伝達、あるいは安全な場所への避難行動、浜田市への訓練終了報告などをする。

なおこれまで訓練実施は議員へも案内して観覧いただいていたが、今回は市民参加型のため特に議員への案内予定はない。また当日に必要な情報があれば各支所防災自治課へ問い合わせいただきたい。

笹田議長
柳楽議員

ただいまの報告について議員から質疑はないか。

これまでも各地域では住民参加型で実施されていたのではと思ったので、「今回は住民参加型で実施」という言葉に違和感がある。市民から、本庁と支所とで防災訓練についての連携ができているのかという声をいただいた。今回はどういった連携を取られたか確認したい。

総務部長

本庁と支所の連携が不十分だという不安があるなら非常に残念であり、我々がもう少し留意しなければならないと改めて思う。例えば住民説明に当たり防災安全課で作成した資料を用いると支所と話をする中で、利用するなら参考にしてほしいと。支所は支所のノウハウで自前の資料も持っているので、支所独自のものを使ってもよいと話している。共通認識を持つのは大切である。

柳楽議員

せっかく毎年防災訓練が行われ、各地でいろいろな取り組みをされるが、何かしら基本となるようなものを示すことも必要かと思うので、来年度よろしく願います。

岡本議員

この日は市内の一斉清掃の実施日であるなどいろいろな事業をされていると聞く。防災訓練は行政連絡員などからの意見もあったのだろうが、時期的にどうなのだろう。説明会でもそういう意見が出たと思うが考え方をお尋ねする。

総務部長

6月第1週は従来から総合防災訓練を行ってきたが、この2年はコロナの関係でできなかったこともあり、町内一斉清掃と重なるケースもあろうかと思っていたが、やはり出水期までにやっておきたいため6月第1週をめどに準備してきた。全市的な予定調整は難しいが、できるだけ多くの方が参加できるような日程配慮はして

- いきたい。
- 岡本議員 今回の訓練は市民から報告をするシステムになっていると説明があった。報告したものがどういう形で利用されて、結果をどう生かすのか。
- 総務部長 参加型防災訓練の結果をフィードバックして初めて効果があると思うが、皆にそれをどう戻すかといった具体案は今ここで回答はできない。今後考える。
- 村武議員 会場は浜田市全域とあるが、市内何か所で開催されるのか。
- 総務部長 実際に参加いただく団体、町内会ベースでいうと225町内、おおむね40%超くらいになるかと思う。
- 村武議員 箇所数が多いので議員に案内できないのか。
- 総務部長 225町内というのが我々から情報伝達した内容へ回答いただいたところになる。細かい内容は団体ごとに少しずつ違うため全部は把握できてないが、我々から避難情報を出し、それに回答いただくのが225町内の予定である。
- 芦谷議員 市は大義名分で協働のまちづくりを進めている。各地区の様子を拝見すると安全安心や防災部会などをつくっている。要綱に、地域まちづくり推進委員会が出てこない。もう少し大きく構え、市全体の安全安心をつくる、その中に町内会なり自治会なりがあるという位置づけでわかりにくい。市と連動していない感じがするのだが。
- 総務部長 今回の資料でいうと目的の中に自主防災や町内会単位という書き方をしている部分だと思う。今協働のまちづくりを進めている中でも、市全体のまちづくりはその組織でということをやっている部分がある。浜田地域でいえばまちづくり推進委員会ができておらず、町内会や自主防災だけができているところもある。それらも含めて全体としてそこへ持っていくという方針が大事である。地域政策部と連携して改めて取り組んでいきたい。
- 芦谷議員 地域は大きい小さいがある。市として各地域の体制をしっかりと組み、それが地域のまとまりにつながり、現場のいろいろな整理をされることを要望したいのだが。
- 総務部長 まちづくりと防災とは切っても切れない。組織にしても全くイコールではないにしろ非常に関連性があるのでしっかりと連携したい。
- 牛尾議員 石見地方はそろそろ大きな地震が来てもおかしくないと聞く。最近、地震対策の防災訓練はやってないような気がする。水害についてはダムができるなどで対策レベルが上がっているが、地震対策についてはどのように考えているか。
- 総務部長 市の計画でも水害編、地震編など、少しずつ対応が変わることは認識している。近年は思いもよらぬ大雨が多いので、まずはそれへの不安を払拭したいため今回も水害対応の訓練にしている。即具体的な予定を持っているわけではないが、ご指摘のとおり留意して取り組んでいきたい。

笹田議長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(2) コロナ禍における「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」に伴う子育て世帯等臨時特別支援事業について

笹田議長

健康福祉部長。

健康福祉部長

国が先月26日に決定した、コロナ禍における原油価格物価高騰等総合緊急対策で示されたメニューについて、地域福祉課及び子ども子育て支援課で実施予定の事業について報告する。

上段の、住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金については令和4年1月の臨時会議において令和3年度の住民税非課税世帯及び家計急変世帯に対して10万円を給付する国事業を予算化させていただいている。

このたびの総合緊急対策については先ほど言った支給対象者1で、非課税世帯については令和4年度の非課税世帯についてもプッシュ方式で対象者全員に書類送付する予定だが、家計急変についても引き続き支給する。ただ、令和3年度の非課税世帯で給付済みの方については今回は対象外となっている。

また下段、子育て世帯の生活支援特別給付金については先ほど臨時会議において議決いただいたので説明を省略する。

笹田議長

ただいまの報告について議員から質疑はないか。

柳楽議員

申請期限は子育ての申請期限と同じか。

健康福祉部長

要綱が出るのが6月1日のため、まだそこまでわからない。分かり次第プッシュ方式でやっていきたい。

芦谷議員

住民への周知状況を伺う。

健康福祉部長

上の段については該当者にプッシュ方式で申請書を送る。家計急変部分についてはホームページで今後周知する予定である。

芦谷議員

広報はまだへの掲載はないのか。

健康福祉部長

6月1日の要綱が確定したら載せたい。

芦谷議員

2件ほど本人からの申請がある。わかりにくいという声があるので、ぜひ広報へ丁寧に掲載してほしい。

笹田議長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(3) 浜田市国民健康保険診療所の診療体制について

笹田議長

健康福祉部長。

健康福祉部長

医師から5月末での退職の申し出があり、それに伴い6月の診療を変更することとなった。

(以下、資料を読み上げ)

笹田議長

ただいまの報告について議員から質疑はないか。

川上議員

医師確保が難しいという点が一番ネックだと思う。6月は何とか先生の努力で診療していただくとして7月以降も同様の状況なら、残った医師が過重労働を理由にまたやめる可能性も考えられる。

健康福祉部長 ぜひ6月いっぱいでのことを決めて次に進めていただきたい。ぜひやるという返事は聞けないものか。

市長を初め各地へ要望等を行っている。県にもお願いに回っている。医師の連携等を含め、今後も医師確保に努めたい。

笹田議長 ほかに。

(「なし」という声あり)

(4)新型コロナウイルスワクチンの接種対応について

笹田議長 健康福祉部長。

健康福祉部長 (以下、資料を読み上げ)

笹田議長 ただいまの報告について議員から質疑はないか。

佐々木議員 残っているワクチンはどういう状況か。

健康福祉部長 新聞等では5月末で有効期限が切れる余剰ワクチンの報道もあるが、当市にはそういう事例はない。

佐々木議員 4回目はある程度限定された接種とのことだが、スムーズに申請されるのか。

健康福祉部長 最初から基礎疾患のある方や医師が必要と認めた方とされており、浜田市内の該当者が約700人のうち60歳以下で申請がある方を予定している。

笹田議長 ほかに。

(「なし」という声あり)

(5)脱炭素化地域を目指して

笹田議長 市民生活部長。

市民生活部長 この4月に新たにカーボンニュートラル推進室を設置して地域の脱炭素化を目指す。その取り組みを説明させていただく。

(以下、資料をもとに説明)

笹田議長 ただいまの報告について議員から質疑はないか。

川上議員 国が提唱している再エネ加速化・最大化促進プログラムの例として、自然光ダクトとLEDの連携で電気をほぼ使わない照明装置などが出ている。浜田市もせっかくカーボンニュートラル推進室をつくるなら、こういうことも視野に入れて考えていただければ。今後の建築物、改修物についてはぜひLEDだけでなく太陽光だけでなく、太陽光を直接照明として使う装置も一部取り入れてはどうか。夜は照明がないため仕事をしない、働き方改革にもつながる。ぜひ検討していただきたいがいかがか。

市民生活部長 そういう視点も取り入れながらカーボンニュートラルについて推進していきたい。引き続きご支援いただきたい。

三浦議員 邑南町が脱炭素先行地域に選ばれ、先行地域が定める計画などを拝見すると排出量をこの先10年20年でどれくらい削減するか、削減することでどのくらい地域経済効果があるかが具体的に目標数値として示されており、大変わかりやすい将来像が見て取れる。浜田は先行地域ではないが再エネ導入支援事業などに補助するこ

とで年間何件という上限がある中そうしたところが具体的に設置されるとどのくらい削減効果があり、どれほどの地域経済効果を生むかは試算できる。資料をつくれれば浜田市がどういう取り組みをするのか理解が進むし、市民に方向性を説明するにも必要だと思う。やることでどういう効果があるのか明確に共有することが活動促進になると思う。カーボンニュートラル推進室をつくることでどのようにそこを目指していけるのか、積極的に示していただくことで市民にもそういう意識が伝わるものと思う。

P P Aについて具体的に書かれているが、今後P P Aをほかの施設でも行う計画があるか。お示しいただくと事業者の今後の事業研究にも想像が及ぶと思う。わかる範囲で補足いただきたい。

市民生活部長

この先どういう地域を目指すのかわかりやすく示してほしいという指摘があった。まだ効果の試算はできてないが、そういったものもやっていきたい。市民にわかっていただけて取り組んでいただくことが重要なので、わかりやすい表現に努めていきたい。

P P Aについてはほかにやれる可能性のある施設について検討している。検討がまとまれば周知したい。

笹田議長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(6)道の駅「ゆうひパーク浜田」の公設民営化に関する検討資料について

笹田議長

市長。

市長

これまでの経緯と今後についてお話しする。ゆうひパーク浜田は平成6年7月に自動車専用道路における道路サービス内施設としてオープンした。当時から全国でも数少ない民設民営施設として第3セクターであるゆうひパーク浜田株式会社が設置者となり運営してきた。設立当初の多額の設備投資、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響もあり厳しい状況が続くと伺っている中、先月15日に市及び市議会に対し、道の駅運営を継続するための要望があった。要望内に、公設民営の道の駅への移行を検討していただきたいとあった。道の駅ゆうひパーク浜田は市の重要な観光拠点であり高規格道路である山陰自動車道のサービス施設内にある。石見地域の観光ゲートウェイとしての利用や広域的な防災拠点としての活用も期待できる施設である。

今回の要望について道の駅を所管する国土交通省は、どのように思っているのか先般伺ってきた。国土交通省としても山陰道を生かした地域活性化に加え災害等の防災拠点としての役割も期待しており、今後行政主導の施設として活用してもらえればうれしいとの意見だった。

公設民営とするためには公共施設再配置方針との整合性や指定管理をどうするかなど幾つか課題があるが、休館になれば利用者にご不便をおかけすることになり風評被害も心配される。したがってできるだけ早く公設民営化の調査検討をしたい。そのために

はまず施設取得に必要な経費を調査する必要がある。6月定例会議において不動産鑑定に関する補正予算を上程させていただき、その取得価格や課題等を整理した後、できれば9月定例会議で検討結果を報告し今後について相談させていただきたい。この後、担当部長より公設民営化に関する検討事項などについて説明させていただく。

産業経済部長
笹田議長
佐々木議員

(以下、資料をもとに説明)

ただいまの報告について議員から質疑はないか。

今の説明で大体状況がわかった。借入金や経営改善資金といったものも当事者が払えないとなると、どのような流れになるか。

産業経済部長

市と市議会とに出された要望の中に、市が貸し付けている改善資金1500万円程度の猶予が今年8月29日で、3千万円くらい残っている。コロナ禍のため経営改善していないので、金融機関と協調する中でもう1年程度の返済猶予を検討していきたい。

佐々木議員

返済は残るという理解でよいと思うが、4億1千万円はどうなるのか。

産業経済部長

市中銀行5行合わせて4億円くらいある。島根県中小企業再生支援機構が入り、リスケジュール計画を立てて返済猶予している。この4億円については金融機関と市が協調して残金返済を猶予している状況のため、金融機関と連携を図りながら残金返済期間を猶予する。

市が取得したら返済をどうするか。まず6月定例会議に施設購入費を補正予算として上程する。それにより買い取り価格がわかる。4億円程度の貸し付けが購入価格で全て返済できる可能性はかなり低いと思っている。市への残り3千万円の貸し付けは優先的に支払ってもらう。

佐々木議員

まだ検討がなされていない印象を受けたので、また聞かせてもらう。いずれにせよ買い取った場合の経営シミュレーションも、経営安定化が期待できるとあったので、恐らく市が買い取ると経営は黒字になると予想されているのか。

産業経済部長

ゆうひパーク浜田の下の土地は国交省の土地であり、ゆうひパーク浜田が毎年占有料を払っている。また建物はゆうひパーク浜田の持ち物なので固定資産税がかかる。そういった負担がかなり減るのであれば経営は上向きになると考えている。

三浦議員

公設民営化のための施設取得の手法(2)の説明で、法人破産に伴い施設を購入する場合、道の駅の設置者になれるのは市町村または市町村にかわり得る公的な団体に限られると書いてある。先ほどの部長の説明では市が買い取るしかないと言われたと思う。市町村にかわり得る公的な団体には該当がないのか。どういう意味でないと判断したのか。

産業経済部長

浜田市内において市にかわり得る団体はないと思っているし、説明したように現在ゆうひパーク浜田は4億円程度の借入金を抱えている。これを引き受けることになるのでそれを考えると浜田市

- 三浦議員 しか後を継ぐものがないと考えている。
ちなみに法人格などを含めて、例えばどういうところが該当するののか。
- 産業経済部長
三浦議員 観光協会など、いろいろな公的団体が考えられる。
観光協会が浜田市内にはある。しかし負債規模などを踏まえると、市内には該当する団体がないと判断されたと理解してよいか。
- 産業経済部長
柳楽議員 はい。
(3)の公設民営化の効果・課題等の中に、指定管理者制度に移行することで道の駅の活用の可能性が広がるとあるが、どのように広がるのか伺いたい。
- 産業経済部長 ご存じのように有利な立地条件にありながらそれを生かしてない。指定管理を公募することで、例えばプロポーザル等していただければいろいろな可能性が広がってくる、という意味である。
- 柳楽議員
産業経済部長 つまり現在の運営者が受けることはない、ということか。
雇用している職員の都合もあるため当面の間運営は今のゆうひパーク浜田に管理してもらい、その数年後に新たな指定管理者を募集しようと思う。
- 足立議員 (3)の公共施設再配置方針との整合性をどう担保するか。ゆうひパーク浜田を観光やあらゆることの拠点と位置づけて今日まで活用してきた。ゆうひパーク浜田を救済しないと今後の拠点としてふぐあいがあることは執行部も当然認識されていると思う。そういう意味でここはなくてはならない施設だろうと受けとめているはず。公共施設再配置計画の中で、これを取得するならどうしても何か削らねばならないという段階まで執行部は考えているのか。
- 副市長 公共施設再配置における施設整備の基本的な考え方は、まず面積が増える場合は同類のものが削れないかをまず検討する。同類のものだけではできないとなれば全体で考える。現在、公共施設全体で3割削減という考えがベースにあり、それはクリアできているので、今後もしこれを取得するなら計画が変わるか、今ある計画を再確認して3割削減は維持できるようにするのが基本的な考えかと思う。
- 牛尾議員 ゆうひパークが抱える問題点として記載がないのが、2億円の無利子融資の際に中小企業再生機構が入って作成した計画がでたらめだったこと。過去を知らない議員もおられるので、そういうことを書かれるべきでは。
もう1点。課題で固定資産税や土地占用料もかからなくなるという表現がある。しかし固定資産税がかからなくなることは浜田市にとっては大きな減収である。市にとってどうかと、この組織にとってどうかは書いてもらわないと誤解を受ける。これを市でやるのが当たり前という流れで書き込むのは大きな問題がある。
- 産業経済部長 1点目の以前の再生計画のことを書くべきだとのこと指摘は、今後資料に載せていきたい。
2点目の固定資産税についてご指摘の点は間違いはないが、土地の

笹田議長

占用料がかからないのはメリットであることをご理解いただきたい。

ほかに。

(「なし」という声あり)

ここで休憩を取りたい。再開は午後1時5分とする。

[12時 04分 休憩]

[13時 05分 再開]

(7)プレミアム付「はまだ応援チケット」の販売について

笹田議長

産業経済部長

笹田議長

産業経済部長。

(以下、資料をもとに説明)

ただいまの報告について議員から質疑はないか。

(「なし」という声あり)

(8)浜田市都市計画マスタープランの策定について

笹田議長

都市建設部長

笹田議長

都市建設部長。

(以下、資料をもとに説明)

ただいまの報告について議員から質疑はないか。

(「なし」という声あり)

(9)浜田市立小中学校統合再編計画(案)の進捗状況について

笹田議長

教育部長

笹田議長

足立議員

教育部長。

(以下、資料をもとに説明)

ただいまの報告について議員から質疑はないか。

スクールバス導入に伴う考え方を伺いたい。人口減少による学校統廃合はやむを得ない部分もあろうかと思う。ただしスクールバス導入に当たっては現状を見る限り保護者の意向を全面的に聞いている状況ではなかろうか。安全面は当然必要だろうが、一方上府小学校が統廃合された際何キロ以上はスクールバス、石見小学校の生湯地域の子どもたちが低学年から約4キロ歩いている現状を踏まえると、3キロとか2キロとかは統廃合だから導入するというのが理由になるのか。

教育部長

ご指摘のとおり上府小学校等で低学年にスクールバスを出したのはやむを得ないと考えている。高学年にもスクールバスを出してほしいという意見については今後も話し合いながら、基本的には現状以上のことは考えなくてよいように説明をしていきたい。

これは統合時の限定であってほかの校区に一般論として適用していくことは考えていない。統合において保護者の気持ちに配慮しての措置である。

足立議員

地域の声が大きければ例え3キロでも2キロでもスクールバスは導入すると言っているように聞こえるのだが。教育委員会は一定の基準を持つべきでは。もちろん安全は十分考慮しなければいけ

教育部長

ないが、小学校時代において道草をしながら帰るのも成長過程では重要かと思う。毎回定時のスクールバスで帰るのはどうなのか。教育委員会として統廃合はやむなし、スクールバスは何キロ以上、ときちんと示すべきでは。

説明会の現状では、雲雀丘小学校についてはこういう気持ちだとか、四中の保護者はこういう気持ちだと書いただけで、これをそのまま実施するという話ではない。今は保護者の気持ちを受けとめたということである。こちらとしてはこれ以上は保護者の意見を取り入れることはできないと思っているが、それを一方的に言うのではなく、他の学校統廃合協議においては、スクールバスに乗ると体力がつかないとか、道草も大切だという意見も事例として紹介しながら、保護者に理解していただければと考えながら説明会で意見を伺っている。

教育長

教育委員会の基本的な考え方は、子どもたちにはしっかり歩いて通学してほしい。それが体力づくりや道々の発見など、教育効果として非常に大きいのではないか。一方で統合にかかわらず遠方から通う子どもは、最近特に安全安心が保護者にとって大きな関心事だと思う。

今回の統合に当たってはここが最初の基準になるのではなく、これまで統合した事例をもとに、低学年はスクールバスを用意したケースがあるのでそれを想定して提案し、細かなことはこれから詰めていく。基本的には1年生から3年生までと話しているが、その中でも特に距離が近い方は歩くほうがよいということも伝えながら、保護者に検討していただいて最終的に意見を受けとめる方向で進めたい。

笹田議長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(10) 令和5年度開園予定の統合幼稚園に関する基本方針について

笹田議長

幼児教育担当部長。

幼児教育担当部長

(以下、資料をもとに説明)

笹田議長

ただいまの報告について議員から質疑はないか。

(「なし」という声あり)

(11) 浜田市消防本部体制整備計画の策定について

笹田議長

消防長。

消防長

(以下、資料をもとに説明)

笹田議長

ただいまの報告について議員から質疑はないか。

(「なし」という声あり)

(12) 水道メーターの未検針等について

笹田議長

上下水道部長。

上下水道部長

(以下、資料をもとに説明)

笹田議長 | ただいまの報告について議員から質疑はないか。
(「なし」という声あり)

(13) 周布橋架け替えに伴う配水管の設置について

笹田議長 | 上下水道部長。
上下水道部長 (以下、資料をもとに説明)
笹田議長 | ただいまの報告について議員から質疑はないか。
(「なし」という声あり)

(14) 浜田処理区下水道整備事業について

笹田議長 | 上下水道部長。
上下水道部長 (以下、資料をもとに説明)
笹田議長 | ただいまの報告について議員から質疑はないか。
(「なし」という声あり)

(15) その他

笹田議長 | 執行部からほかに報告事項があるか。
(「なし」という声あり)

2 行政視察レポートについて (議会改革推進特別委員会)

笹田議長 | 特別委員会の議会改革に関する検討結果により今回から実施するものである。議会基本条例においても行政視察の目的・成果などを公表し提言や提案につなげるよう規定している。視察先で得た先進的取組や知見等については、視察を行ってない議員を初め執行部と内容を共有し、必要に応じて政策に反映していくべきと考えている。執行部にも少し時間をいただき聴講をお願いする。

西田副委員長 | 先般、議会改革推進特別委員会が大津市議会へオンライン行政視察を実施したため、第1回行政視察レポートを報告していただく。

西田副委員長 | この行政視察レポートは委員会内の佐々木委員と村武委員にまとめていただいた。初めにページに沿ってかいつまんで説明するが、視察日は4月14日、2時から4時、相手先は滋賀県大津市議会、視察目的は大規模災害や感染症といった非常時においても議会の役割を果たせるよう、議員の行動基準等を定める必要があるとして、市議会で初めて議会BCPを策定された先進市である大津市議会に視察・調査し、浜田市議会のBCP作成に生かす。

西田副委員長 | なおBCPとはビジネスコンティニュイティプラン、業務継続計画の略である。

笹田議長 | (以下、資料をもとに説明)
ただいまの報告について質疑はないか。
(「なし」という声あり)
ここで執行部は退席されるが、議員から何かあるか。
(「なし」という声あり)
では執行部は退席されて結構である。

《 執行部退席 》

3 地域協議会と議会との意見交換会の班編成等について

笹田議長
三浦委員長

議会広報広聴委員会、三浦委員長。

皆にご報告申し上げます。議会広報広聴委員会において、コロナ禍においても広聴機能の低下を招かぬようにこれまで取り組んできたが、昨年度に引き続き各地域協議会の方々と意見交換会を実施したいと考え、意見を集約させていただいた。委員会で検討したことだが、全議員のご協力をいただきながら議会として取り組みたいと考えているので、皆に報告申し上げるとともにご協力、ご理解を賜りたい。

配信されている資料には班編成について内容を記している。

(以下、資料をもとに説明)

笹田議長
柳楽議員
三浦委員長

ただいまの報告について質疑はあるか。

昨年に続き地域協議会を対象にされた理由を伺いたい。

基本的に市民の方々とどのようにコミュニケーションの場を取るか。議会報告会や地域井戸端会で地域に出向き広聴機能を担保するべく活動してきたがコロナの状況を見ながらだが、特定の方々と意見交換の場を持つことでコロナの感染拡大防止にもつながるし、昨年度初めて実施して、地域協議会の方からもこういった機会を引き続き設けてほしいという要望もあったため、継続して取り組んでいくことになった。

笹田議長

ほかに。

(「なし」という声あり)

4 主権者教育推進に係る取組について

笹田議長
三浦委員長

議会広報広聴委員会、三浦委員長。

皆にご理解ご協力をお願いいたくご報告申し上げます。まず主権者教育議論の流れについてだが、配信されている資料にあるとおり改選前の議員定数等議会改革推進特別委員会の検討項目の中にも、多様な人材が議員に立候補しやすい環境整備についてという中で議論されてきた。また改選後の議会広報広聴委員会において当面2年間の活動方針の中で、若者を意識した活動を取り入れて議会に対する理解促進を図っていこうということで、主権者教育についてその手法を検討しながら取り組んでいこうと委員会で共有していた。

こうした流れを踏まえ、4月28日の議会広報広聴委員会において議長から当委員会で主権者教育の推進に関する取り組みを進めてほしいとの提案をいただき、委員会内で共有し現在に至る。

具体的な取り組みとして資料のとおり2点について報告する。

(以下、資料をもとに説明)

笹田議長

ただいまの報告について質疑はあるか。

芦谷議員

主権者教育は大事な狙いである。これは議会活動としても教育分野でも大事である。具体的な取り組みの中の1点目、県立大学との共同研究で、具体的な議会の関与について考えがあればお願いする。議員の参加があるかないか。

三浦委員長

共同研究については当委員会から執行部を通じて大学にお願いしたものである。問いかけはまだ漠然としているが、議会として問題意識を持っていることはまず正副委員長が光延先生と既に話しており、採択されたので今後は議員も関与しながら大学と研究を進めていきたい。今の段階ではそこまでなので、具体的な内容が決まれば皆にも報告し、協力をお願いすることもあるかと思うがよろしく願います。

芦谷議員

浜田高校への派遣はよいが、ほかの学校もあまねくやるということについてはどうか。

三浦委員長

もちろん浜田高校だけでなく市内には商業高校、水産高校もあるし専門学校もある。各学校へのアプローチは必要だと思うが、今回は浜田高校から早速ご依頼があったことによる対応になっている。こちらから各方面への働きかけについては先の大学との研究事業などを含め、議会としてどうアプローチしていくかは引き続き検討したい。

芦谷議員

議会として議会広報広聴委員会でされるのか、所管委員会はどこか、議会の方針づくりなど、具体的な今後の歩みについて伺う。

三浦委員長

当委員会としてはあくまで広報広聴活動を行う中で若者を意識した活動をしようということでテーマに掲げたものである。したがって議会全体として主権者教育をどう扱っていくかは、議長団の考えによるものだと思う。当面は議長団から当委員会に対して主権者教育の研究について所管を承っている。その範疇にあるものは当委員会で対応したいと思っているし、芦谷議員が言われるようにこれは当委員会だけで考えるのではなく議会全体で考え行動していくべきと私自身も思っているので、議会全体としてどう扱うかは議長団に委ねたい。

笹田議長

私から一言申し上げておく。今回、主権者教育については前回の特別委員会からの流れで、どのように進めていくか議会広報広聴委員会にお願いした次第である。全てをそこで担うのではなく、主権者教育をどのように議会として取り組んでいくかを最初に議会広報広聴委員会において進めていただき、具体的な最初の取り組みが島根県立大学との共同研究だと思っている。光延先生からいろいろな提言や今後の対応についても話があると思うので、その話を聞いた上で、議会広報広聴委員会が先生と研究した上で議会として取り組めることがあれば議会全体のものとして考え、取り組むべきだと考えている。

芦谷議員

大変重い命題なので、議長におかれては議会の構えを議会運営委員会にでも諮られ、これから歩むべく方向についてきちんとした議論をお願いする。

笹田議長

ほかに。

(「なし」という声あり)

5 その他

笹田議長

最後に議員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

私から一言皆に申し上げる。浜田市議会議長として現在、全国市議会議長会の中でも大きな役割を担っている。先般そういった役割を担ってきたので一つ皆に報告したい。

5月19日木曜日に長崎市にて、全国市議会議長会の特定第三種漁港協議会会長として参加させていただいた。監査会、役員会、定期総会を行った。13市のうち10市が出席し事業計画と予算案と審議が行われ全て可決された。国に対する要望書は各市から提案されたものを議題として上げたが、一部違う市議会の議長から修正案があったためそれを協議し、10市でそれを可決し国へ要望することが決定した。

引き続き5月24日火曜日、東京都の全国都市会館にて全国市議会議長会の部会長会と理事会に参加した。中国部長会として参加したのだがその理事会において、今年度は全国市議会議長会の副会長に承認された。その後地元選出国会議員の先生方と意見交換を8市の議長会とともにいった。細田議長の議長公邸で話をさせていただいたのだが、今後の地方創生について細田議長からも話を伺った。

翌日5月25日水曜日に東京都の東京国際フォーラムで定期総会が行われた。その中で、勤続35年で牛尾議員が表彰されている。総会の中で部会の提出議案と会長提出議案全て承認されている。今回全国市議会議長会の副会長としては、建設運輸委員会に振り分けられているため、当委員会のオブザーバーとして会合へ出席することとなっている。

今年度はこういった重い役職を皆の代表として働いていくので、引き続きまた何かあれば報告させていただく。

ほかにないようなので、以上で全員協議会を終了する。

[13時 52分 閉議]

浜田市議会全員協議会規程第6条の規定により、ここに全員協議会記録を作成する。

浜田市議会議長 笹田 卓